# 姫工新聞

発行所
兵庫県立姫路工業高等学校
姫路市伊伝居600番地1
（079）284-0111
編集発行
新聞部
編集責任者　野村美今

## 芸術鑑賞会

12月12日(火)に姫路市市民会館にて芸術鑑賞会が行われた。今回の内容は芸能「言葉と体の芸能」をテーマに四つのパフォーマンスを鑑賞した。

トップバッターはお笑いコンビ「スマイル」の漫才。持ちネタの親指を立てて叫ぶ「ウーイェイ！」を会場を巻き込んで行った。次はパペット落語「笑福亭鶴笑」。一人で何体もの人形を操って語る西遊記等、体を張った演目だった。三番手はブレイクダンスグループ「MORTAL COMBAT」。今年のパリオリンピックでは正式種目に採用されたというブレイクダンス。その内容と見所を踊りながら丁寧に解説していただき、生徒や教師もステージに上がって、一緒にブレイクダンスを踊って盛り上がった。そして最後に出演した「XTRAP」は一言では言い表せない、映像や光とダンスの融合した、見たことのない三人組のパフォーマンスであった。ここでも教員が生徒に指名されてステージに上がり、一緒になってパフォーマンスを行い、大いに盛り上がった。

終了後「XTRAP」にインタビューを行うことができた。仕事上心がけていることは何かと聞くと、「何事にも、いつも一生懸命に取り組み、知らない人にも、初めて観る人にも、楽しんでもらえるように心がけている」と答えてくれた。今回見せてくれたのは、プロジェクションマッピングを活かしたダンス。指の動きで表現する万華鏡。LEDを使ったパフォーマンス。点滅して動く棒とダンスが絶妙なタイミングで合っていたので、そのことを質問すると、企業秘密ではあるがと前置きして、新聞部員にはこっそりどうしているか教えてくれた。とにかく三人は、観客を驚かせ楽しませ喜ばせたいと日々新しいパフォーマンスを考えているとのこと。彼らは「不思議」から発想を広げ、幾何学模様等に派生させるなど、発想力や想像力が素晴らしい。そして想像したアイデアを実現させてしまう工学的なスキルを持っていることが何より驚かされた。（2D野村）

## 特集

『あひるの仔』は姫工で活躍する生徒のインタビュー記事である

3年生は卒業を迎え、それぞれ新しい道に進み始めようとしている。この姫工新聞を手に取ることも最後になるだろう。そして、1年生と2年生も次の学年へ進む意識を持ち始める時期となった。

今回は今年度活躍した生徒を「あひるの仔特集」として紹介したい。

## 高校生ものづくりコンテスト 化学分析部門 全国大会出場

8月2日滋賀で行われた近畿地区大会で優勝、11月11日、12日に熊本で行われた高校生ものづくりコンテスト化学分析部門全国大会に出場した化学研究部2C後藤稟來さん（城山中）に話を聞いた。

競技はキレート滴定という飲料水中の硬度を分析するもので2時間半の競技時間内に20回の作業を行い、そのスピードと正確さが求められる。C科の全学年の校内選考会を経て、代表になった後藤さんは、放課後や休日に練習を重ねて、技術を磨いたそうだ。

大会の印象を聞くと、競技中は自身も含め、ピリピリと緊張した雰囲気だったが、終了後は、空気が変わり、感想を話し合うなど競技者同士仲良くなったのだという。

来年の抱負を聞くと、やはり全国大会に出て優勝を狙いたいそうだ。そのためにはまず校内で選手に選ばれなくてはならないと、次を見据えた瞳で語ってくれた。

ぜひがんばってほしい。

▲ものコンの様子

## 青空文庫朗読コンテスト 高校生の部 全国3位入賞

第18回青空文庫朗読コンテスト全国大会高校生の部で銅賞になった演劇部3C浅田真花さん（豊富小中）に話を聞いた。

コロナ対策の影響で、審査員の前で朗読することがなくなり、今は録音した音声を送り、全て審査されるとのこと。

朗読内容は、日本の文豪3作品の中から一つ選んで10分程の範囲を読むというもの。浅田さんが選んだのは芥川龍之介の『仙人』。

3人の登場人物がいて、距離感の表現が難しく、録音室の反響もあって、どう発声したら伝わるか悩んだという。工夫して録音したものを送り、見事全国大会出場の10名に選ばれた。そこから更に審査され、見事3位という結果だったそうである。こういった賞を取るのが初めてだったので、とても嬉しかったそうである。これからも自信を持って何事にも挑戦していってほしい。

▲朗読の様子

## 高校生ものづくりコンテスト 電気工事部門 全国大会出場

8月8日に兵庫県西宮市にて行われた高校生ものづくりコンテスト電気工事部門近畿地区大会で、見事優勝し、11月11日、12日に佐賀県で行われた全国大会に出場した、電気研究部2E三木駿佑さん（豊富小中）に話を聞いた。

全国大会では作業する面積もそれまでの倍ほどもあり、競技時間も増えて、課題も難解だったそうである。

他の競技者のレベルが予想していた以上に高かったのが印象に残っているそうだが、全国大会では、敢闘賞という結果を残すことができた。

聞けば上位者とも僅差であり、手ごたえを感じることのできた全国大会だったそうだ。

来年への抱負を聞くと、「全国大会での優勝を目指している」と迷うことなく教えてくれた。

彼の目標が叶うことを心から願っている。

▲ものコンの様子

## マイコンカーラリー2024 カメラクラス 全国大会出場

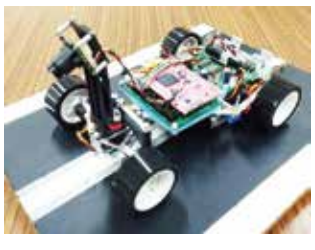
12月27日、28日に長野県にて行われたジャパンマイコンカーラリー2024全国大会に出場した、機械研究部2R塚本啓人さん（飾磨東中）に話を聞いた。

大会は3部門あり、塚本さんが出場したカメラ部門は、車体に付けたカメラからの映像を解析しながら車を自走させるというもの。

近畿大会で4位だった塚本さんは、全国のライバル達がみな強そうに見えたものの、実際には大きな差があるわけではなかったそうである。

塚本さんは来年の大会に向けて、大会出場者の制御プログラムの早かった他校の人達にろいろ質問したそうだ。その結果わかったのはどんなプログラムでも「トライアンドエラー」と工夫次第だということ。

塚本さんの来年の成果に期待したい。



▲カメラ型マイコンカー

## 若年者ものづくり競技全国大会 自動車整備職種 出場決定

第23回高校生ものづくりコンテスト近畿地区大会自動車整備部門で3位入賞し、出場をした2年生の中で、トップの成績だったため、令和6年7月に群馬県で開催される第19回若年者ものづくり競技大会全国大会に出場が決定した、機械研究部2M2川口翔さん（安室中）に話を聞いた。

自動車整備の競技内容は、エンジンの故障の原因を探す、故障がないか点検確認する、いろいろな箇所を計測するの三つがあるのだそうだ。

近畿大会では練習したことのない初めての車種が出て慌てたそうだが、持ち前の気合で、なんとか作業を乗り切ったそうだ。

結果は3位入賞となり、全国大会出場が決まった。そのこと自体はとても嬉しかったそうだが、自信がなかったので結果には驚いたと、彼ははにかんで教えてくれた。

全国大会への抱負を聞くと、やってみないとわからないので、自分を信じて努力あるのみだと、やる気をみなぎらせていた。

▲Youtubeに動画が掲載されている

▲動画QR
彼の意気込みを感じてほしい

## 沈思黙工

今回の新聞でようやく校舎に掛けられた横断幕の面々全員にインタビューすることができた▼新聞部の仕事の醍醐味の一つがこのインタビューだ。誰でも初めは緊張するが、予め質問内容など準備して当たれば怖くはない▼むしろ知らない他学科の知らない場所に入ることができ、話したことのない他学科の生徒と話す、またとない機会である▼そこで聞く話は新鮮で、その場で湧いた疑問をぶつけるのもまた楽しい。どんな質問を投げかけても、大抵の人は丁寧に答えてくれるからだ▼新聞部は、今回五人の3年生部員を送り出す。部員は、とうとう一人だけになった▼皆の気持ちをすくい上げ活字にする、そんな仕事を！ぜひ一緒にしないか！

（参考）　M機械　E電気　C工業化学　Dデザイン　W溶接　R電子機械